

PHP新書「地震予報」読者の皆様へ №1778長期継続大型地震推定前兆 原稿校了後の前兆変化についての続報

続報 №355

2023.12/29 (金曜) 12:00 発表

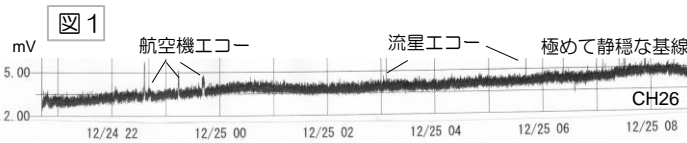
八ヶ岳南麓天文台 電離層モニター観測所

Yatsugatake South Base Observatory 〒409-1502 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254

※首都圏直下・南海トラフ等大型地震は前兆検知から発生までの日数は数日の可能性が高いですが、№1778前兆は28年の観測歴上最長継続の最大に難解な変動です。№1778前兆につきましてはPHP新書「地震予報」に記したため、読者の皆様へ出版後の前兆変動の変化について続報公開しています。№1778以外の他の地震前兆につきましては本HPでは公開できません。E-mail またはFAXで配信している観測情報でのみ公開しています。本観測研究をご支援下さる皆様に№1778以外の別の地震前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実験」には是非ご参加下さい。№1778に関しては解説資料32~35頁参照

PBF特異完全終息 → 2024年 6月 9日 ±3 発生推定 (修正)

※2024.6/9 ±3 発生推定は日々配信の観測情報で既に12/22に報告済



◆PBF特異型変動は12/5に終息の可能性が考えられましたが、2~3日に数個程度（PBF変動の突出変動をひとつ又は数個と表現するならば）が散発的に現れ、12/16-17にかけては10時間以上PBF特異変動が出現しました。12/17.5以降は特異型変動の出現が一切なく、12/17.5以前とは全く異なる図1の様な静穏基線となりました。12/17.5から既に12日間経過しましたが、その間ひとつのPBF特異型変動の出現はなく、12/17.5に完全終息したと認識されます。2022.7/28.4PBF極大、2023.12/17.5終息の関係からTmap:Tpp=3.9:1経験則使用で、対応地震発生は**2024年 6月 9日 ±3**が推定されます。修正させて頂きます。

◆2022.9/3初現で継続出現中の八ヶ岳のCH20.21の特異変動は2023.7/22（噴火型主極大中心）との関係を特異変動で過去例のある1:1で計算しますと、**2024年 6月 8日 ±3** 発生の可能性が計算されます。

◆2023.7/13と9/23に顕著に出現した噴火型前兆変動は図3の通り、主極大・副極大型前兆と認識されます。主・副極大間をTps、主極大~発生までをTmapとしたとき、Tmap:Tps比の平均は3.7:1ですが主極大が副極大より長い出現では4.2:1まで観測例があります。逆の場合は3:1まで観測例有。Tmap:Tps比は2.7:1~4.7:1範囲内で平均3.7:1の可能性有。今回の主極大は非常に長いため4.6:1を使用した場合、2024.6/8 ±7（少々不確かで誤差大きい）が計算可能。参考。

◆PBF変動に直前特異が出現する場合（出現しない可能性も有）は2024.2/17 ±3 に出現の可能性有。特異変動は2024.3/19に終息する可能性もありますが、発生まで終息しない可能性も有。CH32BT特異は、2024.3/27に終息する可能性が計算されます。これらの変化が認められなくても、現状は発生推定日に変更はありません。直前特異が出現の場合は、発生日を絞り込める可能性がありますので、注意して観測します。現状、対応地震発生推定日はPBFからの**2024年 6月 9日 ±3**の可能性が高い見解です。

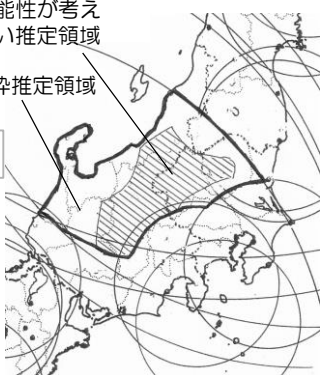
※№1778が推定通りM8±規模である場合は計算上1)の断層の長さは100kmを超える可能性があります。実際に100kmを超えるかは不明ですが、仮に100kmを超える場合は、例えば諏訪湖から日本海までの直線距離の長さが震源となりますので、推定震源がどこであると、ポイント的には推定できません。図4の斜線域内に震源の一部が含まれる可能性をご理解下さい。また観測歴上最長の15年以上も継続する前兆で極めて難解な前兆変動であるため推定内容に間違いがある可能性も否認できません。その場合はどうかお許し下さい。仮に№1778が推定通りのM8±規模で発生となった場合には、1891年（明治24年）に発生した濃尾地震M8に並び国内最大規模の内陸地殻地震となる可能性もあります。

1) $\log L = 0.5 M - 1.8$ 式 $L = \text{断層長km (Utsu)}$

斜線域=可能性が考えやすい推定領域

太線内=大枠推定領域

図4



№1778 推定領域図

図5の斜線域は火山から約30km圏内を示す



図5

№1778 可能性が考えやすい推定領域内の主な火山

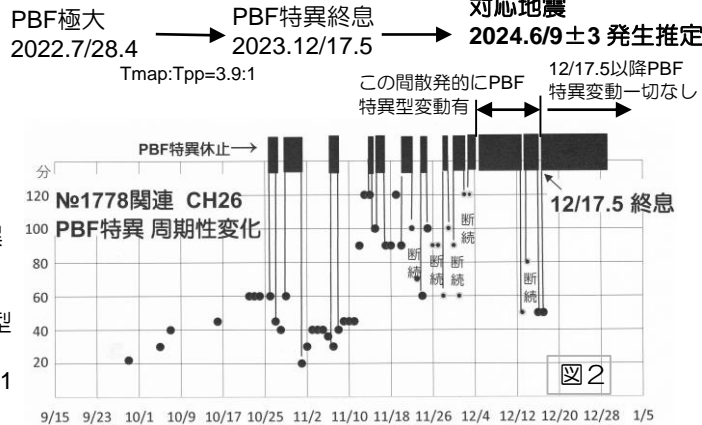


図2

CH20.21特異変動 初現2022.9/3 → 噴火型主極大中心 A → 2023.7/22 → 対応地震 → 2024.6/8 ±3 発生推定

噴火型中心 2023.8/22 → CH32BT特異

噴火型主極大 2023.7/13 → 噴火型副極大 2023.9/23 → 対応地震 → 2024.6/8 ±7 発生推定

Tps=72日 Tmap:Tps=4.6:1 (Tmap:Tps=2.7:1 ~ 4.7:1)

※今回の火山性前兆変動と他の特異前兆変動との関係は極めて複雑です。

図3

噴火型前兆と特異前兆変動との関係

- ◆推定領域：図4の太線領域内（大枠推定域）
- 図4斜線領域：可能性が考えやすい領域
- 火山近傍領域の可能性が考えやすい
- ◆推定規模：M8.0 ± 0.3
- ◆推定時期：2024年 6月 9日 ±3日
- ※今後新規前兆変動出現の場合は再考
- ◇推定地震種：震源浅い内陸地殻地震
- ◇推定発生時刻：午前 9時 ± 2 時間 又は 午後 6時 ± 3 時間